



(写真上) 彩色灰釉大鉢(ブルー)2万円。  
(写真下) 鳥をイメージした鳥器1万円(木箱付)。



彩色灰釉皿(ブルー)4500円。



古民家を自ら改装し、作品を展示している仲岡信人さん。「今はガス窯ですけど、将来は窯変がやりたいなあ。」

●プロフィール  
仲岡信人(なかおか・のぶひと)  
1977年大阪府生まれ。中学生の頃、兵庫県三田市へ。1996年丹波焼の西端正氏に師事。2000年京都市工業試験場 陶磁器科入所。2001年再び西端正氏に師事。2003年青年海外協力隊員でカリブのセントビンセントに赴任、現地で陶芸指導。2005年任期修了、帰国。2006年篠山市立杭で独立。

合と白丹波の伝統技法から生み出されたのが、木蓮の花のような、やわらかな雰囲気をもった白のマット調の彩色灰釉。料理が映える乳白色だ。  
「丹波の技法や土を使わないと、自分はこの地にいる必要性がなくなりませんから」。丹波焼の伝統を生かしながら、現在の生活空間、スタイルに馴染む、生命力あふれる作品をつくり続ける。



1枚だと葉皿に、5枚を星型に並べると花にもなる。彩色灰釉葉皿(ブルー)1万4000円。



彩色灰釉片口(ブルー)9000円。

「造形は、鳥や花や葉など、生きているものをモチーフにすることが多いですね」と、外から丹波焼の世界に飛び込んだ仲岡さん。小さな頃から工作大好き少年。漠然ともものづくりで食べていきたいと思っていたある時、「テレビで轆轤をひいているおっちゃんを見て」「陶芸家に憧れたのだとか。高校卒業後、義理の兄の友人である丹波の陶芸家を通じて、丹波焼の西端正氏に弟子入り。「土を触った瞬間、あっこれやと思っただんです」。その後、京都市工業試験場の陶磁器科に入る。「現場しか知らなかったの、理論を勉強したかったです。行って確信がもてました」。学んだ釉薬の調

強い意志と生命力を感じる片口や鳥器の造形。パスタを盛っても絵になりそうな葉皿には、瑞々しさを感じる。



彩色灰釉割り山椒(ブラウン)4500円。

信懐窯 仲岡信人さん  
和のスタイルだけではおさまらない、鼓動を感じるフォルムと質感。



リゾート地にも洋室にも和室にも合いそうな、彩色灰釉花器(ブルー)1万6000円。